

都道府県インフルエンザワクチン担当者会議

インフルエンザを含む
感染症の動向について

国立感染症研究所 感染症情報センター

2007/08シーズンの流行の特徴

2007/08シーズンの流行の特徴 「早い流行開始」

流行開始：2007年第47週（11月中）

昨年は、2007年第3週

1987年の感染症発生動向調査開始以降では最も早く始まり、冬期休暇中に一旦報告数が減少した

流行のピーク 2008年第5週

第5週の定点あたり報告数（17.62）は過去10シーズンの最多報告数と比較しても2000/01年シーズンに次いで低い値

週別、年別定点あたりインフルエンザ患者報告数
（現在のインフルエンザ定点数：内科約2,000、小児科約3,000）

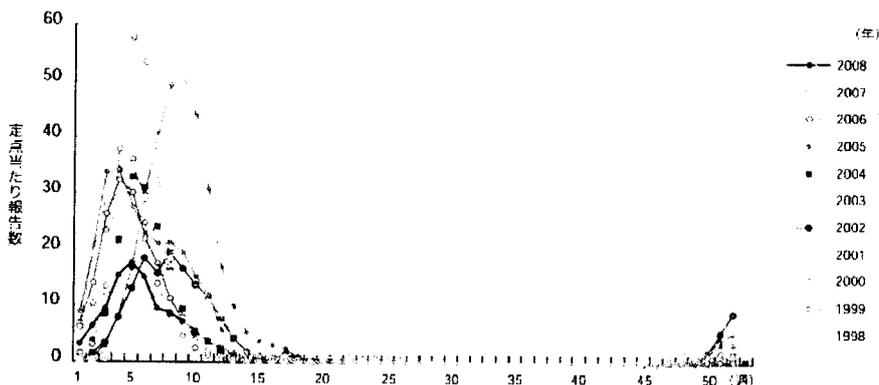


図1. インフルエンザの年別・週別発生状況(1998年～2008年第9週)

（感染症発生動向調査より）

<http://idsc.nih.gov.jp/idwr/kanja/weeklygraph/01flu.html>

2007/08シーズン都道府県別インフルエンザ患者報告数

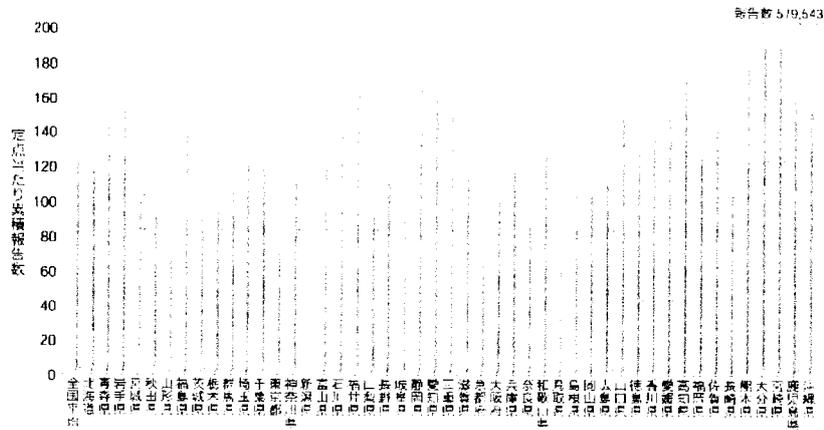
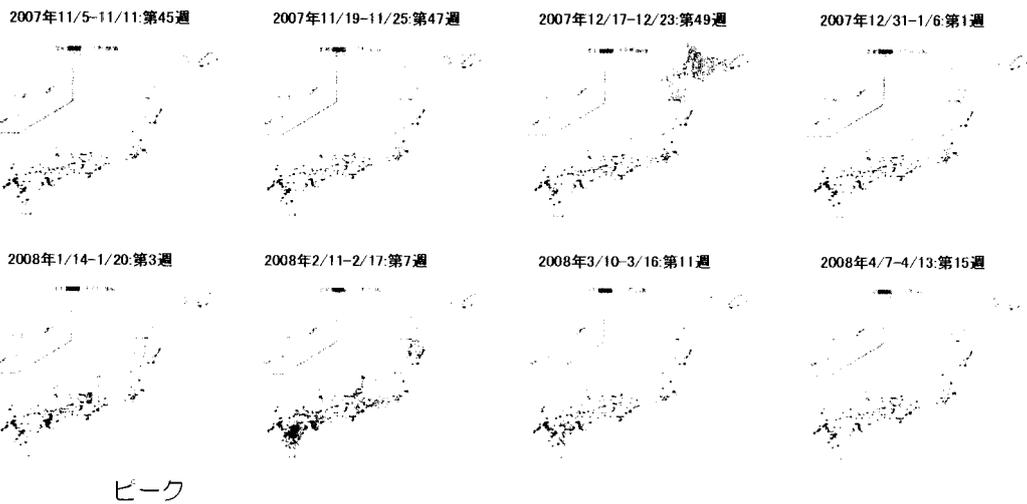


図3 2007/08シーズンのインフルエンザの都道府県別累積報告状況
(2007年第36週～2008年第9週)

感染症週報：IDWRより

2007/08シーズン週別都道府県別インフルエンザ患者報告数



インフルエンザ流行レベルマップより

<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/inf-keiho/index.html>

インフルエンザ報告患者年齢別割合 2007/08シーズンおよび2006/07シーズン

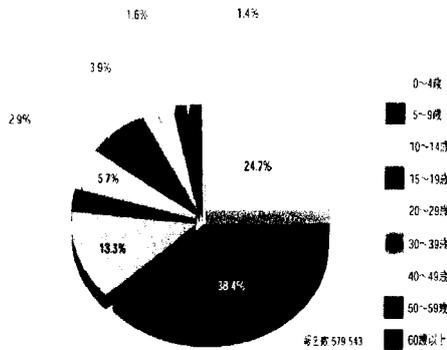


図4. 2007/08シーズンのインフルエンザ報告患者数の年齢別割合
(2007年第36週～2008年第9週)

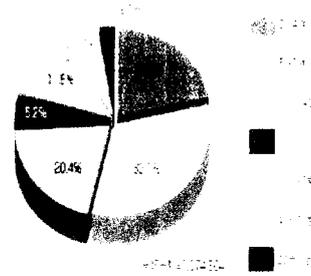


図5. インフルエンザの報告患者の年齢別割合 (2006年第36週～2007年第29週)

感染症週報：IDWRより

インフルエンザ様疾患による休校、学年閉鎖、学級閉鎖数 (厚生労働省結核感染症課調査)

	休校数	学年閉鎖数	学級閉鎖数
2007/08シーズン (11/5～7/19)	377	2015	4428
2006/07シーズン (11/5～7/14)	381	3687	10035
2005/06シーズン (11/6～3/25)	283	2217	6599

ウイルス分離状況

各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告

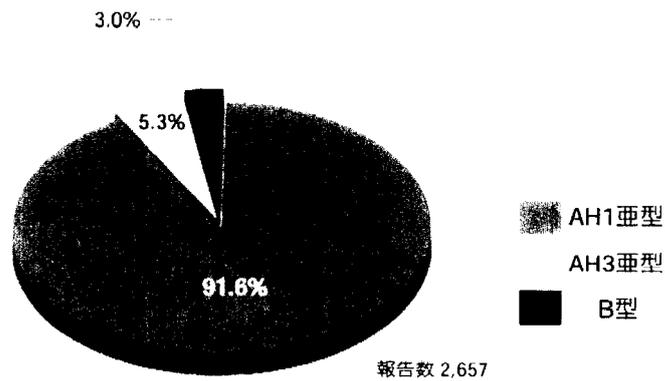
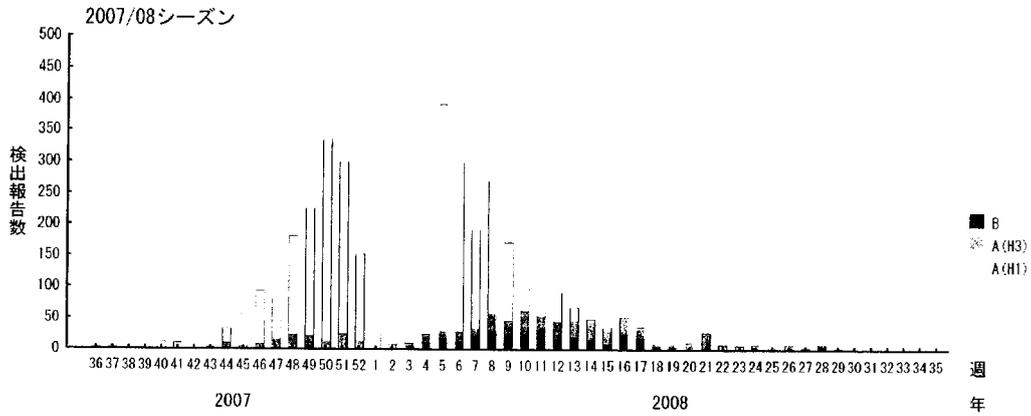


図5. インフルエンザウイルス型別分離・検出割合報告(2007年第36週～2008年第9週)
(病原微生物検出情報: 2008年3月6日現在報告数)

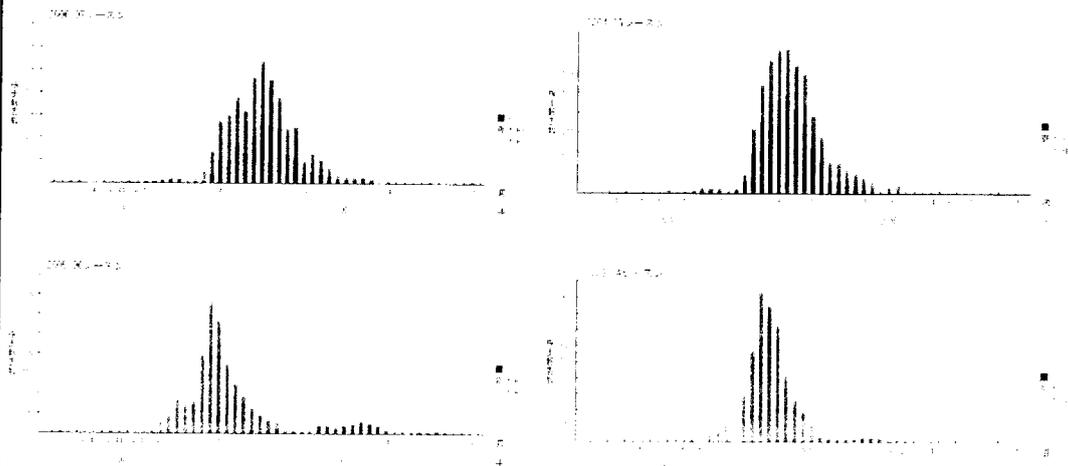
感染症週報IDWRより

各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告



病原微生物検出情報IASRより

各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告



病原微生物検出情報IASRより

インフルエンザワクチン

Recommended composition of influenza virus vaccines for use in the 2008-2009 northern hemisphere influenza season

WHO Epidemic and Pandemic Alert and Response (EPR)

ホームページより

Recommended composition of influenza virus vaccines for use in the 2008-2009 northern hemisphere influenza season

It is recommended that vaccines for use in the 2008-2009 influenza season (northern hemisphere winter) contain the following:

- an A/Brisbane/59/2007 (H1N1)-like virus;
- an A/Brisbane/10/2007 (H3N2)-like virus;*
- a B/Florida/4/2006-like virus.#

* A/Brisbane/10/2007 is a current southern hemisphere vaccine virus.

B/Florida/4/2006 and B/Brisbane/3/2007 (a B/Florida/4/2006-like virus) are current southern hemisphere vaccine viruses.

For more information

[Recommended composition of influenza virus vaccines for use in the 2008-2009 influenza season \[pdf 103kb\]](#)

<http://www.who.int/csr/disease/influenza/recommendations2007north/en/index.html>

今（2008/09）シーズンの 国内インフルエンザワクチン株

2008/2009

A/ブリスベン/59/2007 (H1N1)

A/ウルグアイ/716/2007 (H3N2)

B/フロリダ/4/2006

2007/2008

A/Solomon Islands(ソロモン諸島)/3/2006 (H1N1)

A/Hiroshima(広島)/52/2005 (H3N2)

B/Malaysia(マレーシア)/2506/2004 (ビクトリア系統株)

過去の国内インフルエンザワクチン株

シーズン	ワクチン株
2006/2007	A/New Caledonia(ニューカレドニア)/20/99(H1N1) A/Hiroshima(広島)/52/2005(H3N2) B/Malaysia(マレーシア)/2506/2004(Victoria 系統株)
2005/2006	A/New Caledonia(ニューカレドニア)/20/99(H1N1) A/New York(ニューヨーク)/55/2004(H3N2) B/Shanghai(上海)/361/2002(山形系統株)
2004/2005	A/New Caledonia(ニューカレドニア)/20/99(H1N1) A/Wyoming(ワイオミング)/3/2003(H3N2) B/Shanghai(上海)/361/2002(山形系統株)
2003/2004	A/New Caledonia(ニューカレドニア)/20/99(H1N1) A/Panama(パナマ)/2007/99(H3N2) B/Shandong(山東)/7/97(Victoria 系統株)
2002/2003	A/New Caledonia(ニューカレドニア)/20/99(H1N1) A/Panama(パナマ)/2007/99(H3N2) B/Shandong(山東)/7/97(Victoria 系統株)
2001/2002	A/New Caledonia(ニューカレドニア)/20/99(H1N1) A/Panama(パナマ)/2007/99(H3N2) B/Johannesburg(ヨハネスバーグ)/5/99(山形系統株)
2000/2001	A/New Caledonia(ニューカレドニア)/20/99(H1N1) A/Panama(パナマ)/2007/99(H3N2) B/山梨/166/98(山形系統株)
1999/2000	A/Beijing(北京)/262/95(H1N1) A/Sydney(シドニー)/5/97(H3N2) B/Shandong(山東)/7/97(Victoria 系統株)
1998/1999	A/Beijing(北京)/262/95(H1N1) A/Sydney(シドニー)/5/97(H3N2) B/三重/1/93(山形系統株)
1997/1998	A/Beijing(北京)/262/95(H1N1) A/Wuhan(武漢)/359/95(H3N2) B/三重/1/93(山形系統株) B/Guangdong(広東)/05/94(Victoria 系統株)
1996/1997	A/山形/32/89(H1N1) A/Wuhan(武漢)/359/95(H3N2) B/三重/1/93(山形系統株)
1995/1996	A/山形/32/89(H1N1) A/北九州/159/93(H3N2) B/三重/1/93(山形系統株)

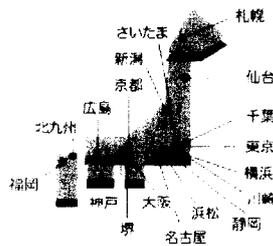
超過死亡

インフルエンザ関連死亡迅速把握システム

[2006年5月3日更新]

<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/inf-rpd/index-rpd.html>

インフルエンザ関連死亡迅速把握システムによる 2007/08シーズン18大都市インフルエンザ・肺炎死亡報告



インフルエンザは毎年のように流行を繰り返す。社会生活に大きな影響を与えます。我が国では、この便便の社会へのインパクトを流行中に早期に通知するため、2000/01シーズンから18大都市（東京都及び指定都市）において、インフルエンザによる死亡および肺炎による死亡を、死亡診断書種別からの把握を把握できるシステムを構築しました。

経緯：都市ごとにバリエーションを特定し、03/04年（報告開始のシーズン）において、インフルエンザ流行がなかった場合に死亡数（インフル）を推定（行）しました。報告開始後は標準変動する中で、異常な死亡数に示す都市は、報告開始前年の割合の異常を考慮して、報告開始年の増減に関する把握を把握しています。超過死亡数は、異常な死亡数（点）が、インフル（線）の95%信頼区間の上限である閾値（ピンク線）を上回っている個において、異常な死亡数と閾値との差として算出されます。「超過死亡」については、インフル（線）と、肺炎死亡（点）に超過死亡（点）を算出しました。

・2003年に札幌、大浜市、2005年福岡市、2006年に堺市、2007年に浜松市、新潟市、北九州市の計6都市が18大都市に含まれました。



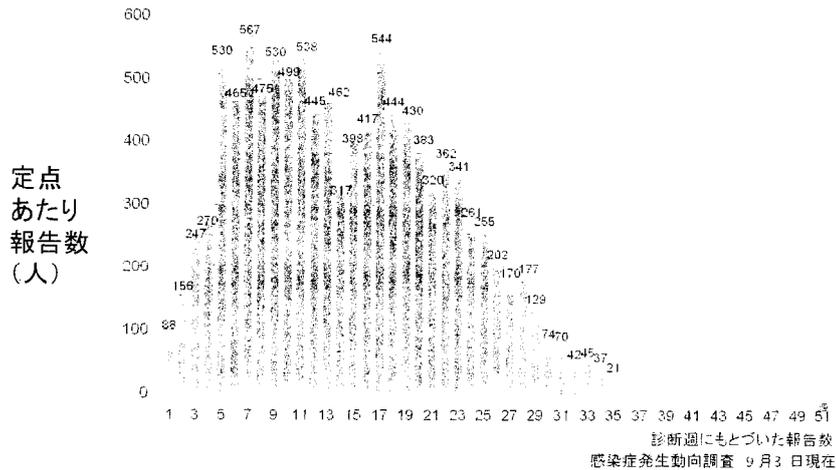


麻疹

2007/08シーズンの流行の特徴



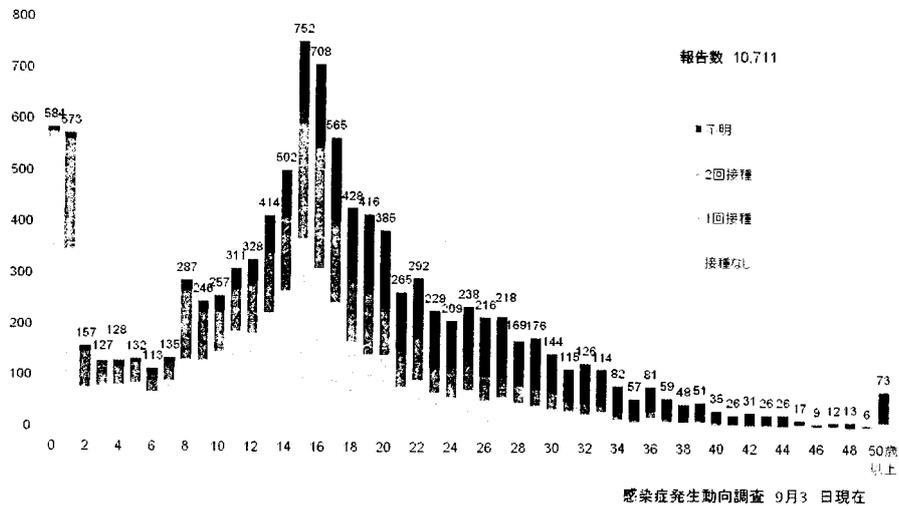
週別麻疹報告数 (n=10,711) 2008年第1-35週



(感染症発生動向調査より) (週)
<http://idsc.nih.gov/idwr/kanja/weeklygraph/01flu.html>



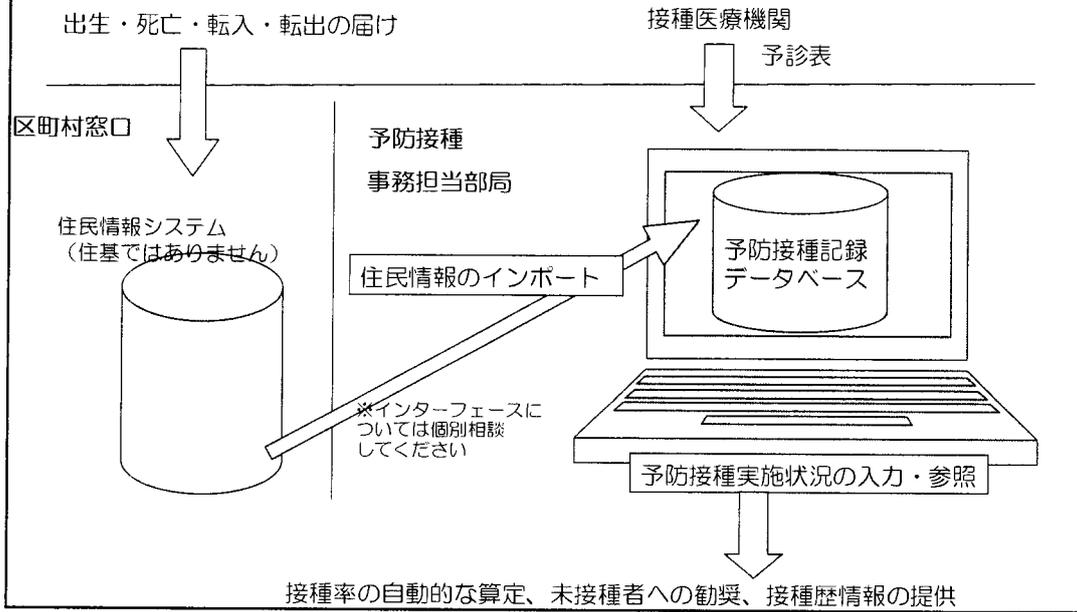
年齢別接種歴別麻疹累積報告数 (n=10,711) 2008年第1-35週



予防接種管理システム

- 特定感染症対応指針に基づくシステム
- 自治体によっては既に住民の予防摂取情報が電子化されている
- これから電子化を検討される自治体へ無償提供、サポート
- MR3,MR4の接種率向上のために構築
- 役所外のネットワークにはつながらない役所内のシステム
- 機能
 - ✓ 接種対象者の把握
 - ✓ 個人別予防接種状況の把握・・・個別勧奨の支援
 - ✓ 接種率の自動的な算定
 - ✓ 接種証明書の印刷

システム概要



予防接種管理システムメイン画面

The screenshot shows the main interface of the Prevention Vaccination Management System with the following sections:

- System Title:** 予防接種管理システム
- Left Column (Main Functions):**
 - 接種記録入力 (Vaccination Record Input)
 - 接種歴情報 (Vaccination History Information)
 - 転入者一括入力 (Bulk Input of Movers)
 - 予防接種番号登録 (Vaccination Number Registration)
 - 支払書出力 (Payment Statement Output)
 - 接種状況と接種率データ出力 (Vaccination Status and Rate Data Output)
- System Settings (システム設定):**
 - 住民情報取込・手動 (Resident Information Import - Manual)
 - 自治体名設定 (Municipality Name Setting)
 - 医療機関区分設定 (Medical Institution Category Setting)
 - 支払書設定 (Payment Statement Setting)
 - 過去の予防接種データ取込 (Import of Past Vaccination Data)
- Maintenance (メンテナンス):**
 - 予防接種制度 (Vaccination System)
 - 医療機関 (Medical Institution)
 - 接種歴情報提供 (Vaccination History Information Provision)
 - 外部 バックアップ (External Backup)
- Resident Information Update (住民情報更新):**
 - 最終更新日: 平成20年03月29日21時56分
- Footer:**
 - 終了 (End)
 - 取扱説明書PDF (PDF User Manual)
 - お問い合わせ (Contact Us)

接種記録入力画面

接種記録入力

医療機関名: [選択] 予防接種名: [選択] 生年月日: [選択] 接種年月日: [選択]

カナ氏名: [入力] 漢字氏名: [入力] 個人番号: [入力]

クリア 検索

定期接種期間内
定期接種期間外
接種記録の表示
接種記録の表示
予防記録の表示

番号	カナ氏名	漢字氏名	住所	生年月日	接種年月日	予防年月日	医療機関名	医師名	接種
1	アザチ ミル	足立 実	大津市大津町1-1	H19/7/1					
2	アザチ マスシ	足立 実	大津市大津町4-8-202	H18/7/1					
3	アザチ マスシ	足立 実	大津市大津町3-6-2	H18/4/3					
4	アザチ ミツシ	小杉 隆之	大津市大津町1-1	H15/6/2					
5	アザチ ナナ	藤原 那菜	大津市大津町1-34	H15/8/8					
6	アザチ エイサ	徳重 英作	大津市大津町1-99	H19/5/2					
7	アザチ コウコ	石田 幸子	大津市大津町3-4	H15/3/16					
8	アザチ コウコ	石田 幸子	大津市大津町3-4	H15/3/16	H20/5/10	H20/5/10	白石医院	村 良子	
9	アザチ リョウ	上田 莉子	大津市大津町3-3	H19/11/28					
10	アザチ マコト	奥山 翔	大津市大津町1-1	H20/7/4					
11	イヤマ リン	井山 陸	大津市大津町7-4	H20/1/8					
12	ウエマツ レン	植松 蓮	大津市大津町4-8-202	H20/1/6					

個人番号表示
予防接種番号表示
接種表示
施設別医療機関名表示
医療機関住所表示

全項目CSV 宛名ラベルCSV

登録 戻る

接種歴情報閲覧画面

接種歴情報

個人番号: 100000001 氏名: 足立 実 氏名(カナ): アザチ ミル

生年月日: 平成19年1月1日 性別: 男

住所: 大津市大津町1-1 管轄: 大津支所 区分: 注記 状態: [選択]

クリア 検索

予防接種名	接種日	医療機関	住所
MR3期			
MR4期			
✓ DPT1期追加①回	平成20年2月4日	白石医院	
DPT1期追加②回			
DPT1期追加③回			
DPT1期追加			
DT2期			
✓ ポリオ1回	平成20年4月24日	白石医院	
ポリオ②回			
ポリオ再接種			
MR1期			
MR2期			
麻疹(1歳)			
麻疹(2歳)			
麻疹(3歳)			
麻疹(4歳)			
麻疹(5歳)			
日本脳炎1期1回			
日本脳炎1期2回			
日本脳炎1期追加			
ロタウイルス			

接種歴情報の提供

戻る

接種歴情報出力

接種歴情報

平成 30 年 4 月 22 日

氏 名：星 正 実
住 所：大津市大津町 1-1-1
生年月日：平成 19 年 1 月 1 日

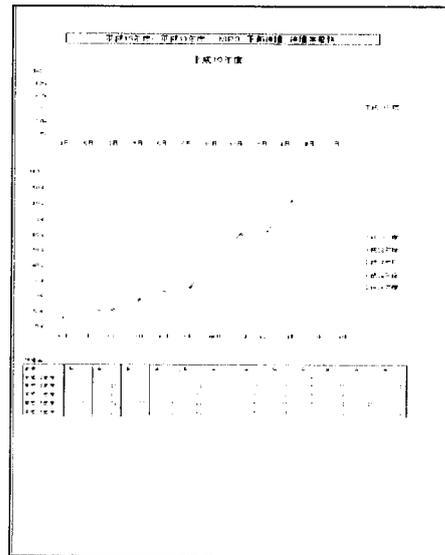
上記の者は下記の予防接種歴を有することと証明する。

記

種別	接種日	医療機関	医師名	備考
DPT1 最初接種 1 回	平成 20 年 2 月 4 日	〇石医療	村 貞子	
2 回目	平成 20 年 4 月 24 日	〇石医療	村 貞子	
PCR	平成 19 年 4 月 5 日	〇石医療	村 貞子	

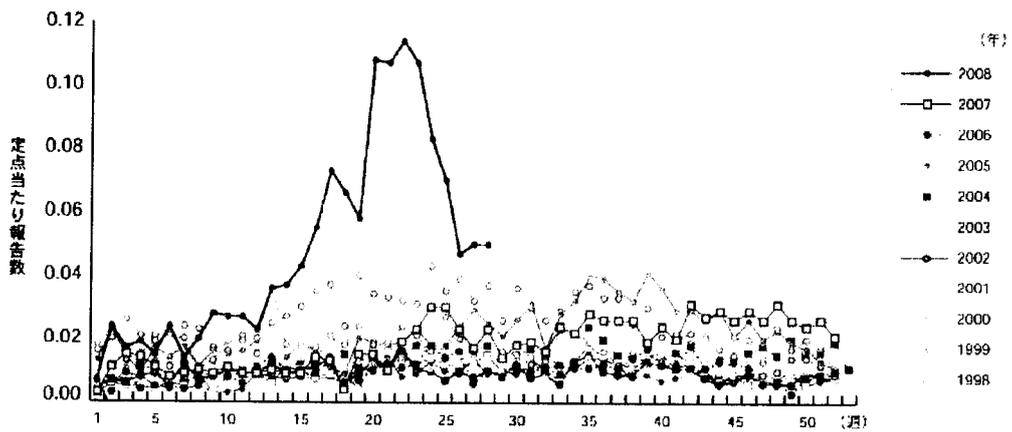
大津保健所
大津五区 大杉 権三

接種率グラフ



百日咳

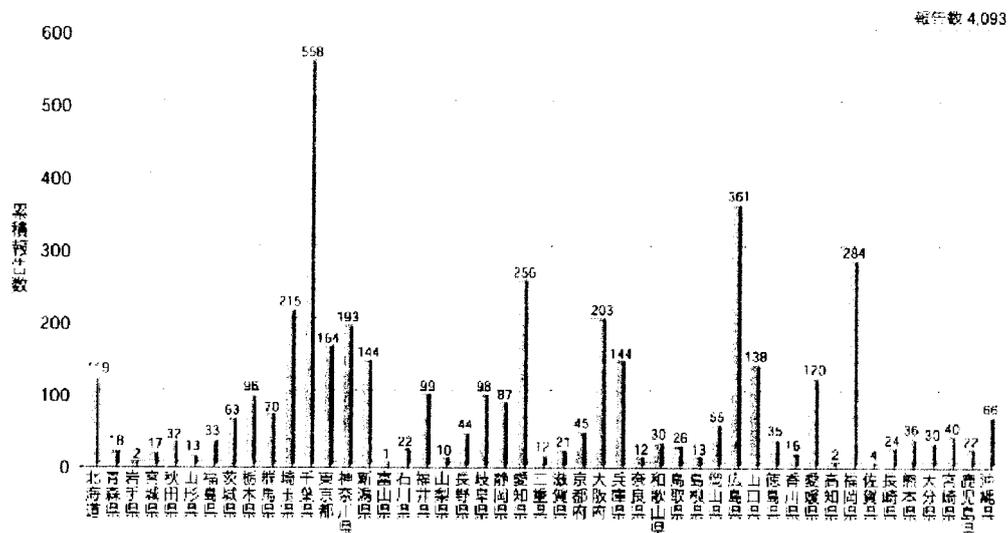
図1. 百日咳の年別・週別発生状況(1998~2008年第28週)



(感染症発生動向調査より)

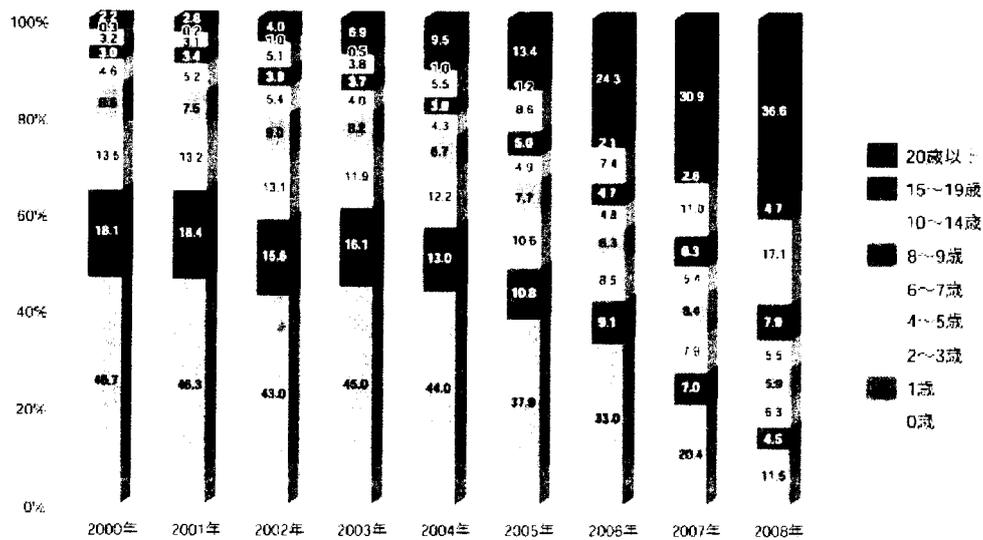
<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/weeklygraph/01flu.html>

図3. 百日咳の都道府県別累積報告状況(2008年第1~28週)



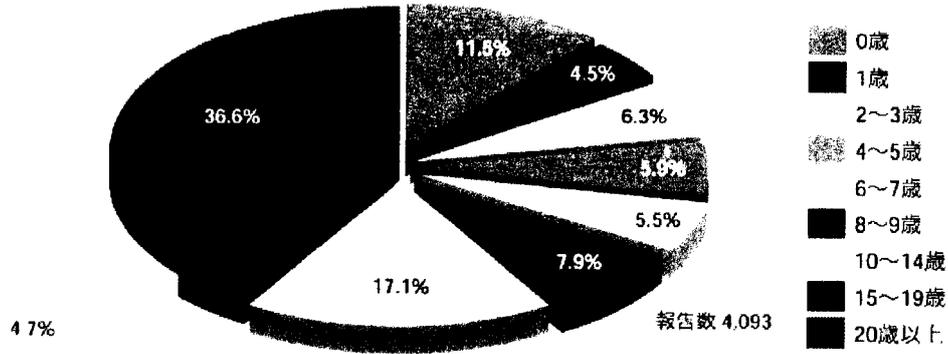
感染症週報：IDWRより

図4. 百日咳の年別・年齢群別割合(2000年~2008年第28週)



感染症週報：IDWRより

図5. 百日咳累積報告数の年齢群別割合(2008年第1～28週)



感染症週報：IDWRより

「百日咳発生DB（データベース）」 登録がはじまりました。

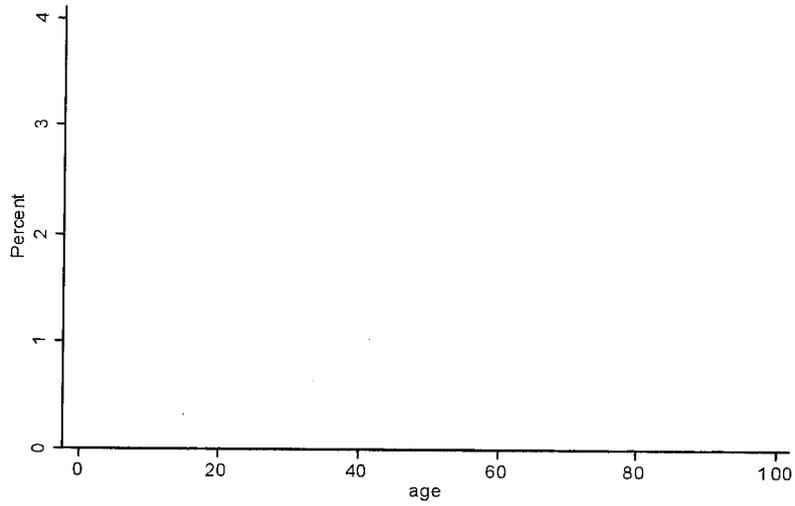
「百日咳」をクリックしてください。

2008年1月1日以降に百日咳と診断した患者についても登録できます。

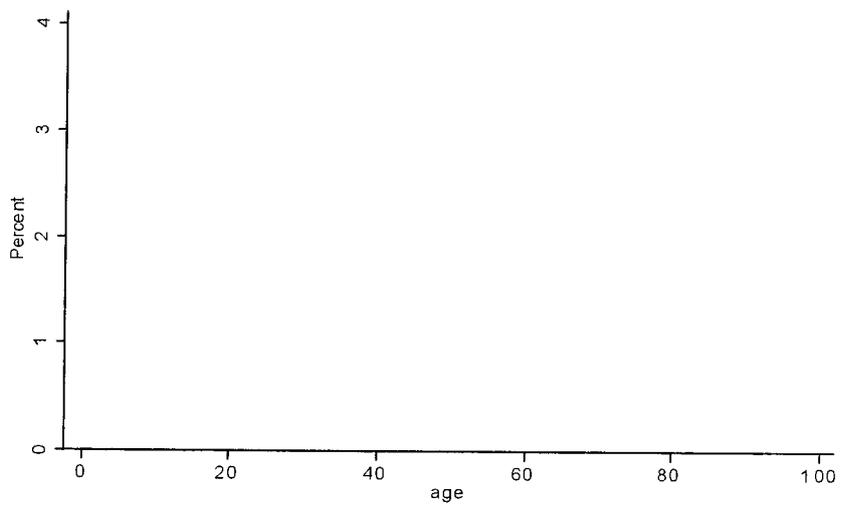
全国の百日咳発生状況

<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

全例(n=467)
成人(16歳以上)例は67%, 平均年齢27歳



検査陽性例のみ(n=387)
成人(16歳以上)例は67%



診断基準	件数
臨床診断	42
検査結果	51
両方	343

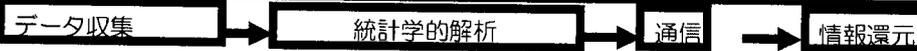
転帰	件数	内合併症
外来で快復	375	1
入院	22	2
否定	3	

検査方法	実施件数	陽性件数
菌分離	76	4
菌凝集素価（ペア血清）	28	23
菌凝集素価（シングル血清）	336	282
抗PT(百日咳毒素)抗体・抗FHA(線維状赤血球凝集素)抗体（ペア血清）	3	3
抗PT(百日咳毒素)抗体・抗FHA(線維状赤血球凝集素)抗体（シングル血清）	116	99
遺伝子検査（PCR、LAMP）	67	59
その他	3	2

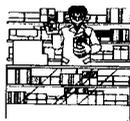
注:重複あり

早期探知サーベイランス

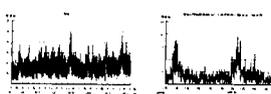
日常業務以上の手間をかけずに地域の状況を共有
データ提供元の詳細な状況は、当該データ提供元のみで還元
将来的には他の症候群サーベイランス（医療機関、学校欠席等）と情報交換



処方箋の情報



感染症流行探知する
アルゴリズム



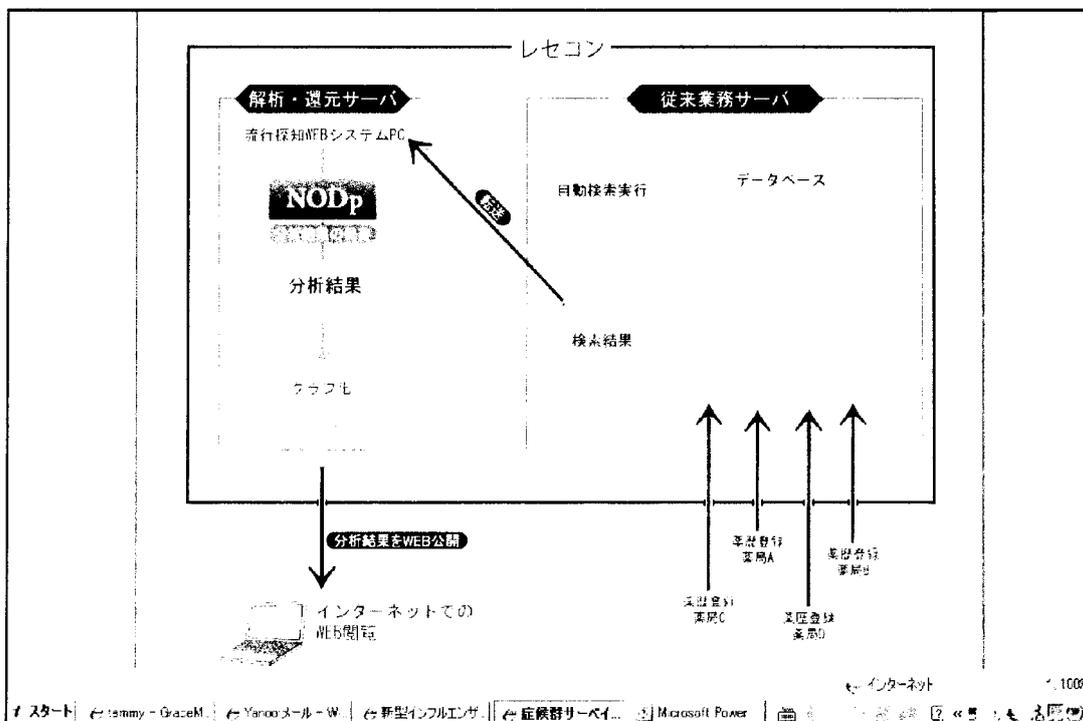
当薬局の流行探知状況
地域的流行状況



完全自動化

背景

- 医薬分業率: 全国平均50%を越える
- 調剤薬局でのレセコン導入率は非常に高い
- 電子カルテを導入していない医療機関における受診状況を把握できる
- 毎晩自動的に、レセコンの個人情報参照せずに薬効分類毎の処方箋枚数を勘定、解析、地域的に集約
- ASP型(全国一か所のデータセンターにデータが集約、保管されている形式)ならば安全で効率的で広域をカバーできる
- ASP型が今後普及の見通し



概要・進捗状況

- EMシステムズ提供のASP型レセコンに組み込む
- 対象薬効：解熱鎮痛剤、総合感冒薬、抗生物質、タミフル・リレンザ、アシクロビル製剤の5分類（最後の2分類では年齢区分（3区分））
- 現在、兵庫（一部）、大阪（一部）、北海道（一部）、佐賀（全県）、宮崎（全県）で運用中(約260薬局が参加)
- 山口（全県）、兵庫（全県）で準備中
- 熊本・滋賀・大分・千葉・新潟県、福岡市薬剤師会で実施に向けて調整中
- 各県庁にも情報活用の依頼、承諾
- 佐賀県では県の事業として位置づけ

参加可能な薬局の比率

